



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

17-18世紀におけるヴェネツィアの福祉施設オスペダーレの音楽活動について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-11-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 室町, さやか メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/3040

17 - 18世紀におけるヴェネツィアの福祉施設

オスペダーレの音楽活動について

室 町 さやか

この論文は、ヴェネツィアのオスペダーレの音楽活動について論じている。オスペダーレは福祉施設の一つで、病院、救貧院、孤児院などの役割をもって貧しい人々を助けていた。中世の時代から、人々は福祉に関する熱意を示していた。1348年を中心とするペストの流行や、1527年にイタリア全土を襲った大飢饉などは、この傾向に輪をかけたといえる。人々は、キリスト教の精神に基づいて福祉活動を行っていた。キリスト教の組織は多くの福祉機関の母体となり、オスペダーレも同様であった。

17世紀前後、ヴェネツィアには4つのオスペダーレがあった。すなわちピエタ、メンディカンティ、インクラービリ、オスペダレットである。ヴェネツィアのオスペダーレは、女性だけで構成されるコーロによる音楽で有名であった。音楽の演奏は施設の運営費を稼ぐ手段の一つに過ぎなかったのだが、彼女たちの音楽が素晴らしくなるにつれてその名声はヨーロッパ中に広まることとなった。C. バーニー、J. J. ルソー、J. W. ゲーテ、その他の著名人たちが、オスペダーレについて証言している。この論文では、とくに「聖母マリアのご訪問またはピエタのオスペダーレ *Ospedale di Santa Maria della Visitazione o della Pietà*」、通称「ピエタ *Pietà*」を取り上げている。

これらのオスペダーレのうちで、ピエタは孤児の受け入れを専門に行っていた。ピエタに暮らしていた子供たちの数は時代によって移り変わりがあるが、18世紀後半には700人近い女性たちが暮らしていた。ピエタのコーロは4つのオスペダーレのうちでもっとも大きく、多くの優れた音楽家を輩出している。この事実には、多くの子どもたちの中から音楽の才能がある者を選別し、幼い頃から訓練を行うことができるという環境が一因していた。

この論文を執筆するに当たって、まずタルボットやバルダフ＝バルデス、D. アーノルド、その他多くの先行研究をあたってオスペダーレに関する情報を整理し、それらにもとづいて考察を行った。本論では、まずオスペダーレの初期の歴史に触れ、フィーリエ・デル・コーロの組織について言及している。後半では、ピエタに関わった音楽家について論じた。とくにA. ヴィヴァルディのピエタでの活動期間とその役職について焦点を当てている。彼が約40年という人生の長

きに渡ってピエタと関わっていたことは、周知の事実である。

ヴェネツィアのオスペダーレは、音楽史そして音楽教育史において重要な役割を果たした機関の一つである。本論の目的は、コーロの組織と音楽活動の関係に留意しつつ、オスペダーレについて論じていくことである。

キーワード：オスペダーレ、アントニオ・ヴィヴァルディ、音楽機関、ヴェネツィア、フィーリエ・デル・コーロ